

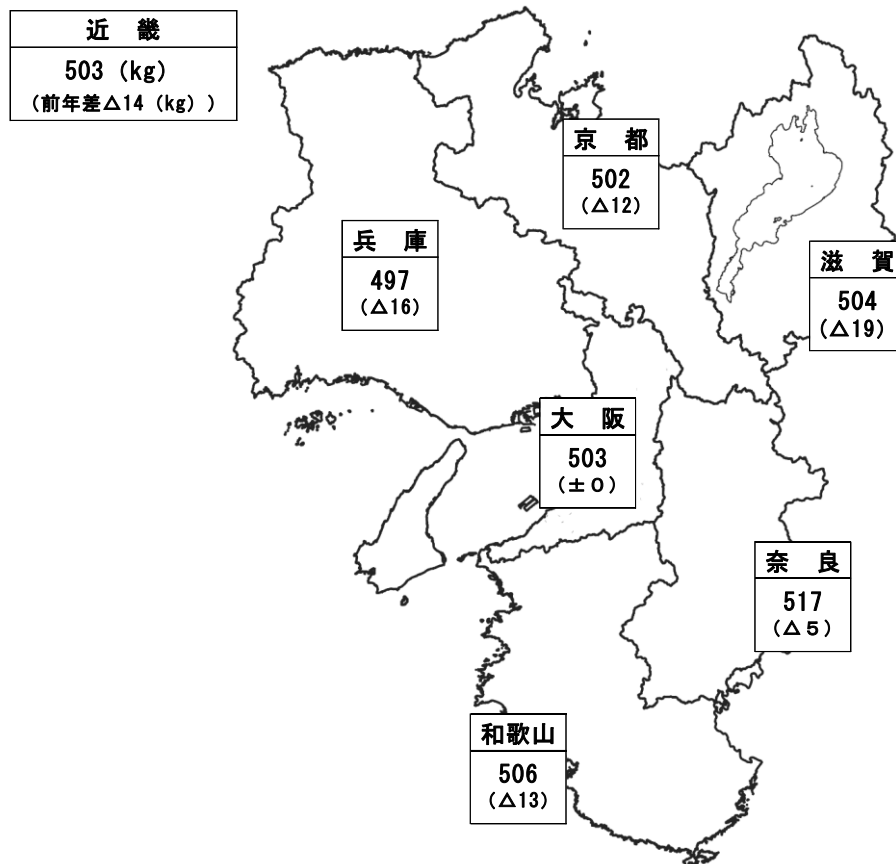
作物統計調査 令和5年産水稻の収穫量（近畿）

— 近畿の収穫量（主食用）は45万7,800 t —

【調査結果の概要】

- 1 令和5年産水稻の作付面積（子実用）は9万4,700ha（前年産に比べ1,700ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は9万1,200ha（前年産に比べ1,600ha減少）となった。
- 2 10a当たり収量は503kgとなった。
- 3 この結果、収穫量（子実用）は47万6,100 t（前年産に比べ2万2,300 t 減少）となった。このうち、主食用の収穫量は45万7,800 t（前年産に比べ2万1,700 t 減少）となった。
- 4 農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100となった。

図1 水稻の府県別10a当たり収量
（1.70mmのふるい目幅ベース）



- ・ 作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下同じ。）。
- ・ 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（以下同じ。）。
- ・ 本資料において、10a 当たり収量及び収穫量とは、特に断りのない限り1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。

◎ 累年データ

1 水稲（子実用）の年次別推移（近畿）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	109,400	518	567,200	106,900	554,000	102
26	108,000	497	537,100	104,500	519,900	98
27	105,800	508	537,200	101,900	517,700	100
28	104,500	516	538,700	100,500	519,000	102
29	103,200	510	526,600	99,400	507,000	100
30	103,100	502	517,500	99,500	498,700	98
令和元	102,600	503	516,400	99,000	498,000	99
2	101,300	490	496,000	97,700	478,000	96
3	99,300	503	499,700	95,700	481,800	99
4	96,400	517	498,400	92,800	479,500	102
5	94,700	503	476,100	91,200	457,800	100

資料：農林水産省統計部『作物統計』（2～7の統計表において同じ。）

注： 作況指数は、10 a 当たり平年収量に対する10 a 当たり収量の比率であり、平成26年産以前は1.70mmのふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、全国農業地域ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて9割を占めるまでの目幅（近畿は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出していた。令和2年産以降は、府県ごとに、過去5か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下同じ。）。

2 水稲（子実用）の年次別推移（滋賀）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	33,400	529	176,700	32,000	169,300	102
26	33,000	502	165,700	31,300	157,100	97
27	32,200	518	166,800	30,600	158,500	100
28	31,900	534	170,300	30,200	161,300	104
29	31,700	517	163,900	30,000	155,100	100
30	31,700	512	162,300	30,100	154,100	99
令和元	31,700	509	161,400	30,200	153,700	98
2	31,100	509	158,300	29,700	151,200	98
3	30,100	519	156,200	28,900	150,000	100
4	29,000	523	151,700	27,700	144,900	101
5	28,300	504	142,600	27,000	136,100	97

3 水稲（子実用）の年次別推移（京都）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	15,500	530	82,200	15,300	81,100	104
26	15,200	507	77,100	14,900	75,500	99
27	15,000	510	76,500	14,400	73,400	100
28	14,800	516	76,400	14,300	73,800	101
29	14,700	510	75,000	14,100	71,900	100
30	14,500	502	72,800	13,900	69,800	98
令和元	14,400	505	72,700	13,800	69,700	99
2	14,300	501	71,600	13,800	69,100	98
3	14,200	504	71,600	13,600	68,500	99
4	14,000	514	72,000	13,400	68,900	101
5	13,800	502	69,300	13,200	66,300	99

4 水稲（子実用）の年次別推移（大阪）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	5,640	502	28,300	5,630	28,300	101
26	5,550	495	27,500	5,540	27,400	100
27	5,440	495	26,900	5,440	26,900	100
28	5,310	505	26,800	5,310	26,800	102
29	5,150	506	26,100	5,150	26,100	102
30	5,010	494	24,700	5,000	24,700	99
令和元	4,850	502	24,300	4,850	24,300	101
2	4,700	472	22,200	4,700	22,200	94
3	4,620	490	22,600	4,620	22,600	99
4	4,540	503	22,800	4,540	22,800	102
5	4,440	503	22,300	4,430	22,300	102

5 水稲（子実用）の年次別推移（兵庫）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	38,400	506	194,300	37,500	189,800	100
26	37,900	487	184,600	36,500	177,800	97
27	37,300	501	186,900	35,700	178,900	99
28	37,000	501	185,400	35,400	177,400	100
29	36,600	501	183,400	35,100	175,900	100
30	37,000	492	182,000	35,500	174,700	98
令和元	36,800	497	182,900	35,300	175,400	99
2	36,500	477	174,100	34,800	166,000	95
3	35,800	491	175,800	34,100	167,400	98
4	34,500	513	177,000	32,800	168,300	102
5	34,200	497	170,000	32,500	161,500	100

6 水稲（子実用）の年次別推移（奈良）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	9,190	527	48,400	9,150	48,200	103
26	9,060	514	46,600	9,040	46,500	100
27	8,870	515	45,700	8,850	45,600	100
28	8,710	525	45,700	8,680	45,600	102
29	8,610	521	44,900	8,580	44,700	102
30	8,580	514	44,100	8,530	43,800	100
令和元	8,490	515	43,700	8,450	43,500	100
2	8,480	482	40,900	8,430	40,600	92
3	8,440	512	43,200	8,400	43,000	100
4	8,410	522	43,900	8,350	43,600	102
5	8,250	517	42,700	8,200	42,400	101

7 水稲（子実用）の年次別推移（和歌山）

年 産	作付面積 (子実用)	10 a 当たり 収量	収穫量 (子実用)	主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成25年産	7,380	506	37,300	7,380	37,300	102
26	7,230	492	35,600	7,230	35,600	99
27	6,900	499	34,400	6,900	34,400	101
28	6,720	507	34,100	6,720	34,100	102
29	6,560	507	33,300	6,560	33,300	102
30	6,430	492	31,600	6,430	31,600	99
令和元	6,360	494	31,400	6,360	31,400	99
2	6,250	462	28,900	6,250	28,900	92
3	6,100	497	30,300	6,100	30,300	100
4	5,980	519	31,000	5,980	31,000	105
5	5,780	506	29,200	5,780	29,200	103

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況、10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）

水稻の収穫量調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45％）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅別の重量割合並びにふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）を示すと次のとおりである。

表 1 ふるい目幅別重量分布状況の推移（近畿）

単位：％

年 産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以上
平成30年産	100.0	0.9	1.6	2.1	2.9	15.2	77.3
令和元	100.0	0.8	1.6	1.9	2.6	14.3	78.8
2	100.0	1.0	1.8	2.1	3.1	14.3	77.7
3	100.0	1.0	1.6	1.9	2.7	14.3	78.5
4	100.0	0.9	1.5	1.9	2.9	12.7	80.1
5	100.0	0.8	1.2	1.6	2.4	10.5	83.5
平均値	100.0	0.9	1.6	2.0	2.8	14.2	78.5
対平均差（ポイント）	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.4	△ 0.4	△ 3.7	5.0

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

表 2 ふるい目幅別 10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（近畿）

年 産		単位	1.70mm 以上	1.75mm 以上	1.80mm 以上	1.85mm 以上	1.90mm 以上	2.00mm 以上
平成30年産	10 a 当たり収量	kg	502	497	489	479	464	388
	収穫量	t	517,500	512,800	504,600	493,700	478,700	400,000
令和元	10 a 当たり収量	kg	503	499	491	481	468	396
	収穫量	t	516,400	512,300	504,000	494,200	480,800	406,900
2	10 a 当たり収量	kg	490	485	476	466	451	381
	収穫量	t	496,000	491,000	482,100	471,700	456,300	385,400
3	10 a 当たり収量	kg	503	498	490	480	467	395
	収穫量	t	499,700	494,700	486,700	477,200	463,700	392,300
4	10 a 当たり収量	kg	517	512	505	495	480	414
	収穫量	t	498,400	493,900	486,400	477,000	462,500	399,200
5	10 a 当たり収量	kg	503	499	493	485	473	420
	収穫量	t	476,100	472,300	466,600	459,000	447,500	397,500
	対前年比（収穫量）	％	96	96	96	96	97	100

注：1 ふるい目幅別の10 a 当たり収量とは、近畿の10 a 当たり収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、近畿の収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

【調査結果】

1 近畿

(1) 作付面積

令和5年産水稻の作付面積（子実用）は9万4,700ha（前年産に比べ1,700ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は9万1,200ha（同1,600ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、滋賀県が「やや多い」、大阪府及び奈良県が「平年並み」となったものの、京都府、兵庫県及び和歌山県が「やや少ない」となった。

登熟は、全もみ数がやや多くなった滋賀県が「やや不良」となったものの、その他の府県では登熟期間の天候に恵まれたこと等から「やや良」となった。

10a 当たり収量は503kg（前年産に比べ14kg減少）となった。府県別では、滋賀県が504kg（前年産に比べ19kg減少）、京都府が502kg（同12kg減少）、大阪府が503kg（前年産並み）、兵庫県が497kg（同16kg減少）、奈良県が517kg（同5kg減少）、和歌山県が506kg（同13kg減少）となった。

農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は100の「平年並み」となった。府県別では、滋賀県が97の「やや不良」、京都府が99、兵庫県が100、奈良県が101の「平年並み」、大阪府が102、和歌山県が103の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は47万6,100t（前年産に比べ2万2,300t減少）となった。このうち、収穫量（主食用）は45万7,800t（同2万1,700t減少）となった。

(4) 玄米のふるい目幅別重量分布状況

ふるい目幅別重量分布状況は、2.00mm以上の玄米の重量割合が83.5%で、直近5か年平均値に比べ5.0ポイント高くなった。

図2 水稻の府県別・作柄表示地帯別作況指数
（農家等が使用しているふるい目幅ベース）

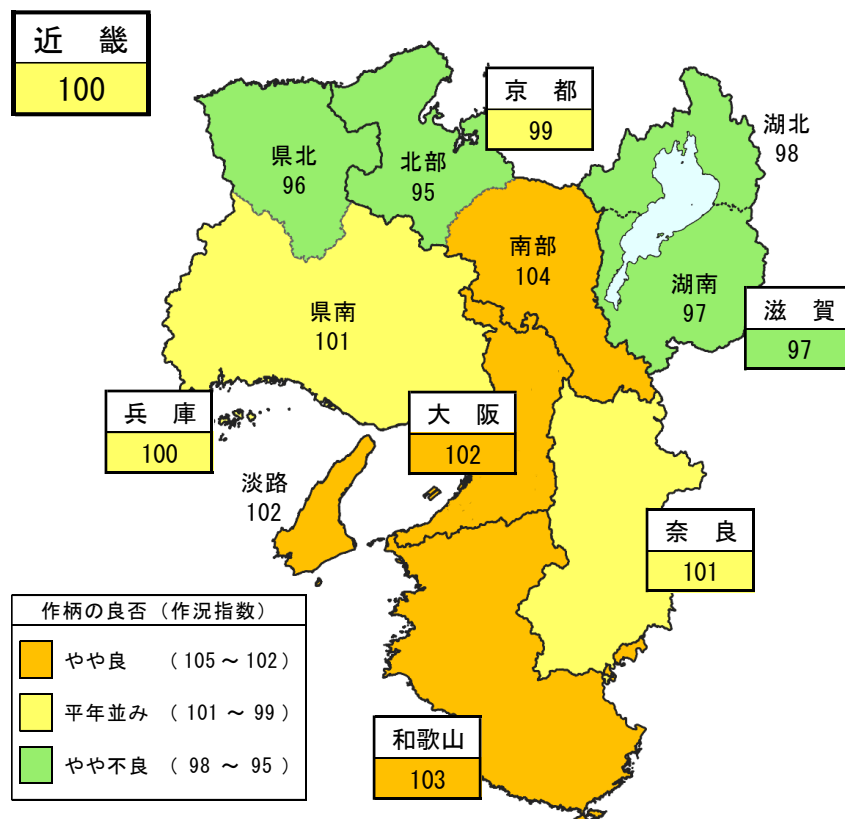


表3 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量

区 分	作付面積（子実用）			10 a 当たり収量 (1.70mmのふり目幅ベース)		収穫量（子実用）			主食用 作付面積	収穫量 (主食用)	作況 指数
	実数 ①	対 前年差	対 前年比	実数 ②	対 前年差	実数 ③=①×②	対 前年差	対 前年比			
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
近 畿	94,700	△1,700	98	503	△14	476,100	△22,300	96	91,200	457,800	100

表4 令和5年産ふり目幅別重量分布状況

区 分		計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以 上
近 畿	重量割合	100.0	0.8	1.2	1.6	2.4	10.5	83.5
	平均値	100.0	0.9	1.6	2.0	2.8	14.2	78.5
	対平均差 (ポイント)	0.0	△ 0.1	△ 0.4	△ 0.4	△ 0.4	△ 3.7	5.0

注：平均値は、直近5か年の重量割合の平均である。

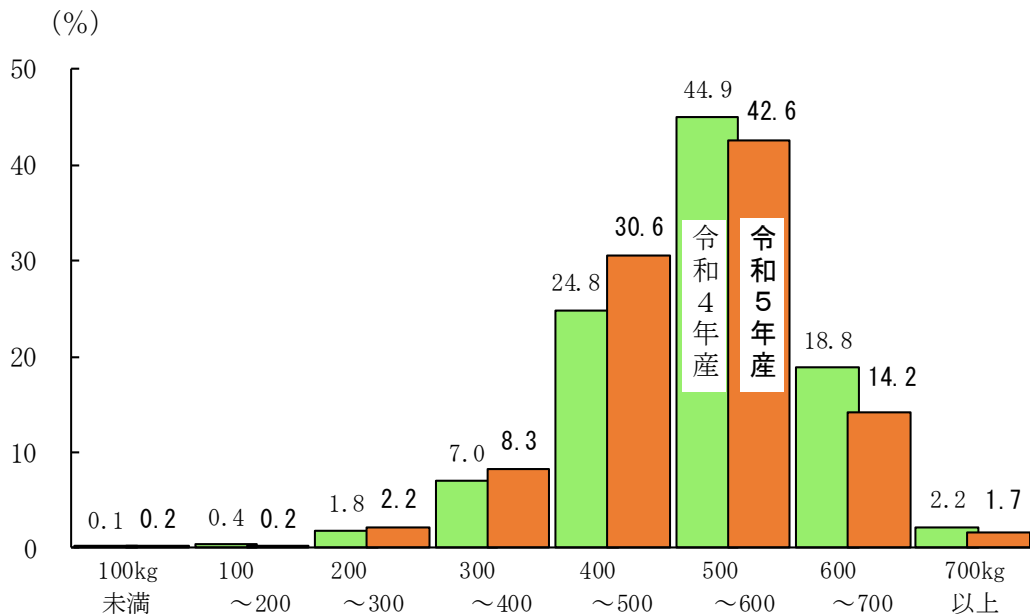
表5 令和5年産ふり目幅別10 a 当たり収量及び収穫量（子実用）

区 分		単位	1.70mm 以 上	1.75mm 以 上	1.80mm 以 上	1.85mm 以 上	1.90mm 以 上	2.00mm 以 上
近 畿	10 a 当たり収量	kg	503	499	493	485	473	420
	収穫量（子実用）	t	476,100	472,300	466,600	459,000	447,500	397,500

注：1 ふり目幅別の10 a 当たり収量とは、近畿の10 a 当たり収量にふり目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

2 ふり目幅別の収穫量（子実用）とは、近畿の収穫量にふり目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

図3 令和5年産水稻の作況標本筆の10 a 当たり玄米重の分布状況（近畿）



注：10 a 当たり玄米重は、1.70mmのふり目幅で選別された玄米の重量である。

2 滋賀県

(1) 作付面積

令和5年産水稻の作付面積（子実用）は2万8,300ha（前年産に比べ700ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は2万7,000ha（同700ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「やや多い」となった。

登熟は、出穂・開花期に当たる7月下旬～8月中旬が記録的な高温となった影響により、不稔もみが平年より多く発生したこと等から「やや不良」となった。

10a当たり収量は504kg（前年産に比べ19kg減少）となった。作柄表示地帯別では、湖南が511kg（前年産に比べ21kg減少）、湖北が490kg（同15kg減少）となった。

滋賀県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.90mm）の作況指数は97の「やや不良」となった。作柄表示地帯別では、湖南が97、湖北が98の「やや不良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は14万2,600t（前年産に比べ9,100t減少）となった。このうち、収穫量（主食用）は13万6,100t（同8,800t減少）となった。

図4 作況指数（滋賀）

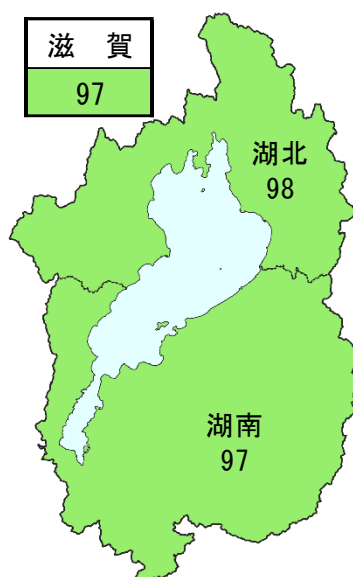


表6 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（滋賀）

府 県 作柄表示地帯	作付面積（子実用）			10a 当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用）			主食用 作付面積	収穫量 (主食用)
	実数 ①	対前年差	対前年比	実数 ②	対前年差	実数 ③=①×②	対前年差	対前年比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
滋 賀	28,300	△ 700	98	504	△ 19	142,600	△ 9,100	94	27,000	136,100
湖 南	19,400	△ 500	97	511	△ 21	99,100	△ 6,800	94	...	...
湖 北	8,880	△ 220	98	490	△ 15	43,500	△ 2,500	95	...	...

府 県 作柄表示地帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）	
	最も多い 使用割合 の目幅	10a 当たり 収量 ⑥	10a 当たり 平年収量 ⑦	作況指数 ⑧=⑥/⑦	全もみ数の多少	登熟の良否
	mm	kg	kg			
滋 賀	1.90	470	483	97	やや多い	やや不良
湖 南	...	478	491	97	やや多い	やや不良
湖 北	...	455	464	98	やや多い	やや不良

3 京都府

図5 作況指数（京都）

(1) 作付面積

令和5年産水稻の作付面積（子実用）は1万3,800ha（前年産に比べ200ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は1万3,200ha（同200ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、5月下旬～6月下旬の断続的な日照不足で分げつが抑制され穂数がやや少なくなった影響等により「やや少ない」となった。

登熟は、出穂期以降が多照傾向で経過し、晩生品種中心に粒の肥大・充実が良好となったことや全もみ数がやや少なくなったことによる補償作用等により「やや良」となった。

10a当たり収量は502kg（前年産に比べ12kg減少）となった。作柄表示地帯別では、南部が530kg（前年産に比べ9kg増加）、北部が475kg（同31kg減少）となった。

京都府の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は99の「平年並み」となった。作柄表示地帯別では、南部が104の「やや良」、北部が95の「やや不良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は6万9,300t（前年産に比べ2,700t減少）となった。このうち、収穫量（主食用）は6万6,300t（同2,600t減少）となった。

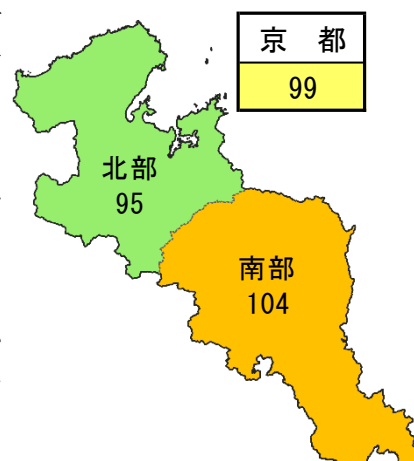


表7 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（京都）

府 県 作柄表示地帯	作付面積（子実用）			10a当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用）			主食用 作付面積	収穫量 (主食用)
	実数 ①	対前年差	対前年比	実数 ②	対前年差	実数 ③=①×②	対前年差	対前年比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
京 都	13,800	△ 200	99	502	△ 12	69,300	△ 2,700	96	13,200	66,300
南 部	6,940	△ 110	98	530	9	36,800	100	100	...	...
北 部	6,820	△ 110	98	475	△ 31	32,400	△ 2,700	92	...	...

府 県 作柄表示地帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）	
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量 ⑥	10a当たり 平年収量 ⑦	作況指数 ⑧=⑥/⑦	全もみ数の多少	登熟の良否
	mm	kg	kg			
京 都	1.85	489	492	99	やや少ない	やや良
南 部	...	516	496	104	やや少ない	良
北 部	...	465	488	95	少ない	やや良

4 大阪府

(1) 作付面積

令和5年産水稻の作付面積（子実用）は4,440ha（前年産に比べ100ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は4,430ha（同110ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、5月下旬～6月下旬の断続的な日照不足等により分けつの抑制がみられたものの、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となった。

登熟は、出穂期以降、気温・日照時間ともに平年を上回って経過したことから「やや良」となった。

10a当たり収量は503kg（前年産並み）となった。

大阪府の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は102の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は2万2,300t（前年産に比べ500t減少）となった。このうち、収穫量（主食用）は2万2,300t（同500t減少）となった。

図6 作況指数（大阪）

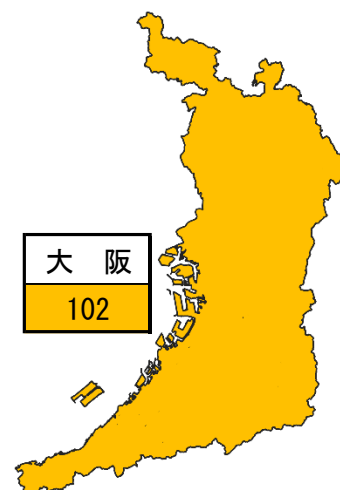


表8 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（大阪）

府 県 ・ 作柄表示 地 帯	作付面積（子実用）			10a 当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②
	実数 ①	対前年差	対前年比	実数 ②	対前年差	実数 ③=①×②	対前年差	対前年比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
大 阪	4,440	△ 100	98	503	0	22,300	△ 500	98	4,430	22,300

府 県 ・ 作柄表示 地 帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）	
	最も多い 使用割合 の目幅	10a 当たり 収量 ⑥	10a 当たり 平年収量 ⑦	作況指数 ⑧=⑥/⑦	全もみ数の多少	登熟の良否
	mm	kg	kg			
大 阪	1.80	489	478	102	平年並み	やや良

5 兵庫県

(1) 作付面積

令和5年産水稻の作付面積（子実用）は3万4,200ha（前年産に比べ300ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は3万2,500ha（同300ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、5月下旬～7月上旬の断続的な日照不足の影響で分けつが抑制され穂数が少なくなったこと等により「やや少ない」となった。

登熟は、出穂期以降はおおむね天候に恵まれたこと、全もみ数がやや少なくなったことによる補償作用等により「やや良」となった。

10a当たり収量は497kg（前年産に比べ16kg減少）となった。作柄表示地帯別では、県南が500kg（前年産に比べ15kg減少）、県北が474kg（同30kg減少）、淡路が512kg（同2kg増加）となった。

兵庫県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.85mm）の作況指数は100の「平年並み」となった。作柄表示地帯別では、県南が101の「平年並み」、県北が96の「やや不良」、淡路が102の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は17万t（前年産に比べ7,000t減少）となった。このうち、収穫量（主食用）は16万1,500t（同6,800t減少）となった。

図7 作況指数（兵庫）

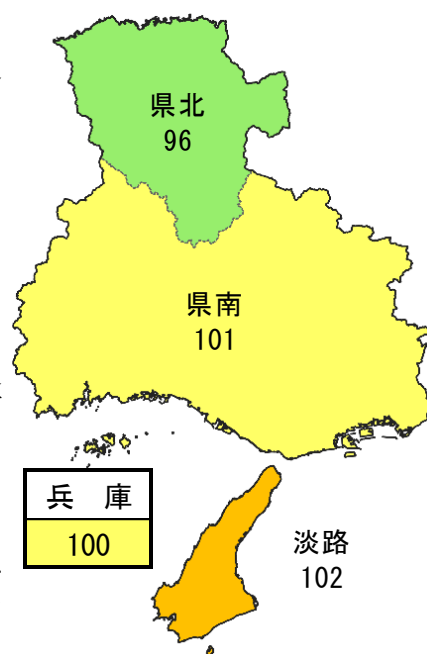


表9 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（兵庫）

府 県 ・ 作柄表示 地 帯	作付面積（子実用）			10a 当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用）			主食用 作付面積 ④	収穫量 (主食用) ⑤=④×②
	実数	対前年差	対前年比	実数	対前年差	実数	対前年差	対前年比		
	①			②		③=①×②				
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
兵 庫	34,200	△ 300	99	497	△ 16	170,000	△ 7,000	96	32,500	161,500
県 南	26,000	△ 100	100	500	△ 15	130,000	△ 4,400	97	...	...
県 北	5,410	0	100	474	△ 30	25,600	△ 1,700	94	...	...
淡 路	2,850	△ 110	96	512	2	14,600	△ 500	97	...	...

府 県 ・ 作柄表示 地 帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）	
	最も多い 使用割合 の目幅	10a 当たり 収量	10a 当たり 平年収量	作況指数	全もみ数の多少	登熟の良否
		⑥	⑦	⑧=⑥/⑦		
	mm	kg	kg			
兵 庫	1.85	478	477	100	やや少ない	やや良
県 南	...	481	476	101	やや少ない	やや良
県 北	...	464	483	96	少ない	やや良
淡 路	...	482	471	102	やや多い	やや不良

6 奈良県

図8 作況指数（奈良）

(1) 作付面積

令和5年産水稻の作付面積（子実用）は8,250ha（前年産に比べ160ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は8,200ha（同150ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、6月下旬の日照不足により分けつの抑制がみられたものの、生育期間を通しておおむね天候に恵まれたことから「平年並み」となった。

登熟は、出穂期以降、気温・日照時間ともに平年を上回って経過したことから「やや良」となった。

10a当たり収量は517kg（前年産に比べ5kg減少）となった。

奈良県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は101の「平年並み」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は4万2,700t（前年産に比べ1,200t減少）となった。このうち、収穫量（主食用）は4万2,400t（同1,200t減少）となった。

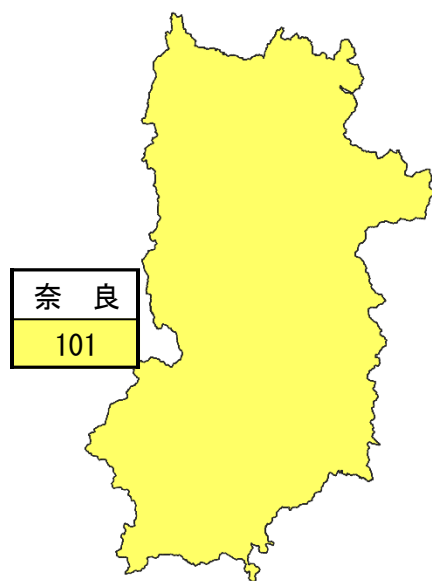


表10 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（奈良）

府・県 作柄表示地帯	作付面積（子実用）			10a当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用）			主食用 作付面積	収穫量 (主食用)
	実数 ①	対前年差	対前年比	実数 ②	対前年差	実数 ③=①×②	対前年差	対前年比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
奈良	8,250	△160	98	517	△5	42,700	△1,200	97	8,200	42,400

府・県 作柄表示地帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）	
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量	10a当たり 平年収量	作況指数	全もみ数の多少	登熟の良否
	mm	kg	kg	⑧=⑥/⑦		
奈良	1.80	507	500	101	平年並み	やや良

7 和歌山県

図9 作況指数（和歌山）

(1) 作付面積

令和5年産水稻の作付面積（子実用）は5,780ha（前年産に比べ200ha減少）となった。このうち、主食用作付面積は5,780ha（同200ha減少）となった。

(2) 作柄概況

全もみ数は、5月上旬及び6月上旬の低温・日照不足により初期分げつが抑制され穂数が少なくなった影響等により「やや少ない」となった。

登熟は、出穂期以降はおおむね天候に恵まれたことや全もみ数がやや少なくなったことによる補償作用等により「やや良」となった。

10a当たり収量は506kg（前年産に比べ13kg減少）となった。

和歌山県の農家等が使用しているふるい目幅ベース（1.80mm）の作況指数は103の「やや良」となった。

(3) 収穫量

収穫量（子実用）は2万9,200t（前年産に比べ1,800t減少）となった。このうち収穫量（主食用）は2万9,200t（同1,800t減少）となった。

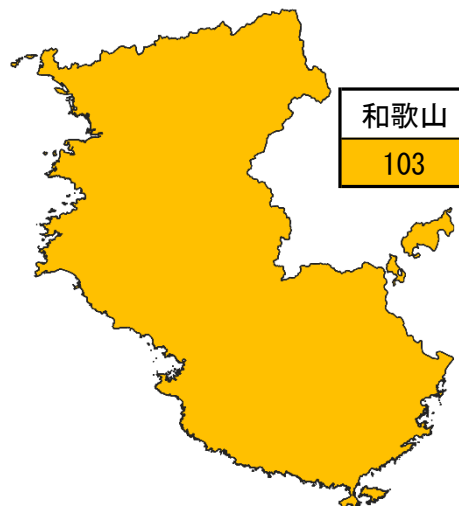


表11 令和5年産水稻の作付面積及び収穫量（和歌山）

府・県 作柄表示 地帯	作付面積（子実用）			10a当たり収量 (1.70mmのふるい目幅ベース)		収穫量（子実用）			主食用 作付面積	収穫量 (主食用)
	実数 ①	対前年差	対前年比	実数 ②	対前年差	実数 ③=①×②	対前年差	対前年比		
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t
和歌山	5,780	△ 200	97	506	△ 13	29,200	△ 1,800	94	5,780	29,200

府・県 作柄表示 地帯	農家等が使用しているふるい目幅ベース				作柄概況（平年比較）	
	最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収量 ⑥	10a当たり 平年収量 ⑦	作況指数 ⑧=⑥/⑦	全もみ数の多少	登熟の良否
	mm	kg	kg			
和歌山	1.80	498	485	103	やや少ない	やや良

【統計表】

https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/xls/05_sakkyou_suitou.xlsx

【調査の概要】

- ・ 面積調査

<https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/menseki/gaiyou/>

- ・ 作況調査（水陸稲、麦類、大豆、そば、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/gaiyou/

【調査結果の主な利活用】

- ・ 主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成6年法律第113号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針の策定のための資料
- ・ 食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料
- ・ 米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

【ホームページ掲載案内】

- ・ 本資料は、近畿農政局ホームページの「令和5年度 農林水産統計公表予定及び公表結果」で御覧いただけます。

<https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/yotei/2023.html#y1212>

- ・ 公表した数値の正誤情報は、近畿農政局ホームページに掲載します。
- ・ 全国の統計調査結果は、農林水産省ホームページの統計情報に掲載している分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「米」の「作況調査（水陸稲、麦類、豆類、かんしょ、飼料作物、工芸農作物）」で御覧いただけます。

https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_kome/#y5

【関連リンク】

農業生産振興関係ページ：農林水産省＞組織別から探す＞農産局

<https://www.maff.go.jp/j/nousan/>

【お問合せ先】

◎本統計調査結果について

近畿農政局統計部生産流通消費統計課

電 話：（代表）075-451-9161 内線2656

（直通）075-414-9650

近畿農政局 滋賀県拠点 統計チーム

電 話：（直通）077-522-4344

近畿農政局 大阪府拠点 統計チーム

電 話：（直通）06-6941-9659

近畿農政局 奈良県拠点 統計チーム

電 話：（直通）0742-32-1874

近畿農政局 統計部 統計調査チーム

電 話：（直通）075-366-2005

近畿農政局 兵庫県拠点 統計チーム

電 話：（直通）078-391-2873

近畿農政局 和歌山県拠点 統計チーム

電 話：（直通）073-436-3835

◎農林水産統計全般について

近畿農政局統計部統計企画課

電 話：（直通）075-414-9620



政府統計

政府統計の総合窓口
(e-Stat)

<https://www.e-stat.go.jp/>



漁業センサス

令和5年11月1日現在で、2023年漁業センサスを実施します。

（流通加工調査については令和6年1月1日現在）



スマホでみる農林統計

近畿の府県別、市町村別の主要農林水産統計データを
スマートフォンで簡単に閲覧できます。

近畿農政局ホームページから、PDFファイルをダウンロードして、
御利用いただけます。動作には、別途 Adobe Reader が必要です。

UR：<https://www.maff.go.jp/kinki/toukei/toukeikikaku/smapho/PDF/200403.pdf>

